人間何事もまず十年の辛抱が肝要。
そしてその間抜くべからず、奪うべからずは基礎工事なり。
されば黙々十年の努力によりて、一おう事は成るというべし。

森信三先生一語千鈞より

師友道友の活動を綴る善行伝承誌

第００８４号

2023.8月号

令和五年　NPO法人福岡実践人

再生の題字（森廸彦様提供）は、森信三先生の直筆です。

中・高生のための「人間の生き方」

―人間学小門―

森　信三先生　講述

一〇　「正直」は人間の土台

われわれ人間には、改めて申すまでもありませんが、生きんがための自己保存の本能というものが備わっております。しかしながらお互い人間は、ともすれば自分一人の気ままやわがままから、この自己保存という自然の本能を超えて、自分の欲望の奴れいになりやすいのであります。それゆえ前章において、自律自制の大事さを説いたわけですが、しかしわれわれの自己形成の上で、一ばん大切なものは何かということになるとそれは「正直」の徳ではないかと思います。何となれば、この「正直」という徳は、われわれ人間が、世の中で生きてゆく上には、一ばん土台になる徳目と申してよいからです。

では何ゆえ、一見何でもないようなこの「正直」の徳が、そんなにも大事かと申しますと、それはおたがい人間関係というものは、結局は双方の間の信頼という絆で結ばれているからです。

ですから、もし「あいつの言うことはアテにならぬぞ。嘘と偽わりが多くて、どの程度に信用して聞けばよいかわかりかねる」ということになれば、だいいち人間関係が円滑に運ばれぬどころか、人びとは、そういう人間とは、なるべく関わらぬようにして、避けて通ることになりましょう。

このように人間というものは、一たび信用と信頼を失えば、たとえ親しかった友人でさえ、相手にしなくなるのであります。しかも単にそれだけにとどまらず、ひいては肝心の得意先や取引先に対しても信用を失い、その後は取引も成り立たぬ、という困難な状態におち入らざるを得ないのであります。近頃では、わたくしたちの子供の頃に較べて、この「正直」の徳についてあまり、言われなくなりましたが、その原因としては、それがあたりまえのこととして、まるで空気や太陽のありがたさがわかりにくいのと同じなのです。しかしながら、この「正直」の徳が対他的に一切の人間関係の一ばん根本の徳目であることは、時代がいかに変わっても、永遠の真理なのであります。

それからもう一つ、「正直」の徳が以前ほどに言われなくなった原因の一つは、「馬鹿正直」というコトバがあるように「正直者がバカを見る」とか、「ウソも方便」とかいうコトバが、意外に人々の間に浸透しているからかとも思われます。

ところで、この「馬鹿正直」というコトバですが、例えばここに一人の病人がいたとして、医者は診断の結果、病名を家族の人に言うとした場合、それがかりに不治の病気などの場合には、「本人には絶対に言わないように――」といい、また家族の者も病人のうけるショックを考えて、本人には決して言わないわけです。また「あなたは近ごろ老けられましたね」などと、相手の気持も考えず平気でいうのは、正直というよりも、馬鹿正直というものでしょう。

以上のことからわかるように、われわれ人間は、自分の心にそう感じたからといって、すぐにそれを、相手かまわず手放しで放言することを以て正直などと考えたら、それこそ大へんな間違いだということです。否、そればかりか、たとえ相手から尋ねられた場合でも、それが相手の人の気持を傷つける恐れのある場合には、その言い方はよほど慎重に考慮して、その場にふさわしいような言い方をすべきでしょう。

これに反して、人から自分のことを尋ねられた場合には、辛くてもなるべくありのままに正直に答えるべきでしょう。しかしこの場合でも、こちらの事を正直にいうことが、相手の人の気持を傷つけるような場合には――もちろん事実は

実践人福岡仁風読書会　第78回　7月1日(土)

場所:仁風庵

（実践人の家の会員であればどなたでも参加できます。

（参加費無料）詳細は、世話人へお問い合わせください。

言わねばなりませんが――その言い方はよほど慎重にすべきでしょう。たとえば、商売など大もうけをした人が、他の人から「こんど大へん大もうけをなさったそうですね」などと聞かれたような場合に、得意になって「エエ、そうなんです。もうかってもうかって、仕方がないほどです」などという人間は、実際にはむろん無いでしょうが、そういう場合には、事実は否定しないが、しかしその場にふさわしいように答えるには、一たい何といったらよいかと工夫する処に、人間のたしなみとか、教養というものがあるといえましょう。

このように、われわれ人間は、「正直の徳」を身につけるためには、一面にはひじょうな勇気がいるわけですが、同時に他の一面からは、相手の気持を察して、それを傷つけないようにする深い心づかいがいるわけであります。それにつけても、われわれの使うコトバの慎みがいかに大切であるか、皆さんもおわかりでしょう。

ところで、このコトバ使いについて、古来最もこれを重視した人は、一たい誰だろうと思われますか。それはわたくしの知る範囲では良寛です。

こう言ったらあなた方には、さぞかし意外でしょうが、良寛には「戒語」といって、自分に対して幾つかの戒めが箇条書きになっているのですが、それは全部で九十ヶ条にも及んでいます。しかもそれらのほとんどが、コトバについての戒めでありまして、わたくしも三十代でははじめてこれを知り、心の底から驚いたのであります。

春の野げし

林　田　勝四郎

うさぎのえさにする「ハルノゲシ」をさがし、
葉の落ちた桑畑を寒風に手を赤くして、
走りまわった少年の日がよみがえる。

葉や茎から乳のような汁を出す「ノゲシ」
この乳草を食べていた白や茶色の子兎たち。
うさぎの箱を私といっしょにのぞきこんで
いた母の顔

春たけなわな頃
花をつけた「ハルノゲシ」を抱えて、
麦畑のあぜ道を走りまわり、タンポポの
ように冠毛をつけて飛ぶ種子を吹きあげ、
清吉と遊んだ少年の日もなつかしい。

石蕗（ツワブキ）の花

晩秋になると
素朴な自然な花、ツワブキの花を想い出す。
古里の山野には、
今も石蕗の花が咲いているだろう。
少年の日
赤松の小枝におとりの目白籠をつるして、
石蕗の花の匂う雑木の茂みにかくれ、
目白の声が近づくのを待った想い出の
あの飯盛山にも、
石蕗の花は咲いているだろう。

第二章　気品ある人格を育てる

損得以外の物差しをもつ

失われた精神文化

日本の社会が長い間平穏を保ってこられたのは、日本人の高い精神文化のおかげでした。それはたとえ戦時下であっても、大災害を被った中であってもしっかりと存在し、破廉恥なことに対しては、周囲の指弾を受ける以前に、自ら「世間にみっともない」という思いのほうが先にたって、いつも身を慎んできました。

戦後六十年たったいまの日本では、ひとから「みっともない」とおもわれていても、自分にはその自覚がなく、平気な人が多くなりました。人としてあるまじき卑しいことをしても、学歴や地位、社会的な身分の高い人ほど、言い訳や言い逃れに長けていて、不祥事が明らかになっても、「知らなかった、調べてみないと分からない」といった責任逃れが常套化しています。その姿は、強大な統一国家・秦を、数年で滅亡させた二世皇帝・胡亥によく似ています。

権力を背景にして、我が物顔で振る舞っていた人が、いざとなると責任はなかったと発言をして、唖然とさせられることが多くなりました。何事にも関与せず、指示も決定もしなかった人が、よく権力の椅子だけを守ってこられたものと不思議に思います。

得にならないことに取り組む

資源に恵まれなかった日本人は、長い歴史を懸けて心の文化を培ってきました。世界に誇れる精神であり、外国の人々から賞賛されてきました。

それは難しい理論ではなく、
人に迷惑をかけないこと、
自分のことで人に負担をかけないこと、
声高に自己主張をして、周囲の人を不愉快にしないこと
でした。学者しか理解できないことではなく、庶民の誰もが自然に身につけていたことでした。「きまりが悪い、バツが悪い、世間に顔向けできない」という気持ちが普段から身につけていて、卑しいことや、恥ずかしいことをしないために自制心となって働いていました。

この自制心が社会の秩序を保ち、治安を維持していました。社会の秩序が保たれている時代は、もし自分の不注意で人に迷惑をかければ、たとえ小さなことであっても素直に謝り、相手も快く「どういたしまして」のひと言で済み、世の中はいつも平穏でした。

今の日本人は、人に迷惑をかけても謝らず、開き直ったりすることから、それがもとで争いごとが起き、命を落としてしまうことも珍しくなくなりました。

第356回　博多駅早朝清掃　　30年目のスタート！

7月8日（土曜日）　　63名参加

第３５６回「博多駅早朝清掃」、梅雨のど真ん中、強い雨と強風とで参加者も少ないだろうなあと思いながら準備を進めていました。ただ、朝会をはじめラジオ体操をする頃は小雨になり通常の運営が叶いました。土曜日の学校休日にも関わらず精華女子校生が２７人も参加してくれました。この日は、参加者のＭさんより、休日参加の女子高生たちにお菓子（うかりんとう）のプレゼントがありました。≪子どもたちの笑顔が最高です≫

今月からラジオ体操指導のO先生

初　　参　　加

博多倫理法人会から会長さん参加

沖縄から掃除帰りYさんの報告

うかりんとうのプレゼント

お世話してくれた仲間たち

太宰府作務に学ぶ会／戒壇院　2023.7.2 新規スタート

7月2日（日曜日）　毎月第一日曜日（作務の後は座禅会）

和尚さんが作務に学ぶ会を先導

前日の大雨で門の石畳は泥だらけ

座禅会前の作務

座禅会が始まりました

令和5年８月1日発行

～古き良き時代の日本再生～

とんぼろ

Instagram

@RAKUNOUJIN1962

＝＝＝心を耕し、生を拓く＝＝＝

第６回　とんぼろ海掃隊海岸清掃in長目の浜　R5.7.15

令和5年（2023）８月号　NO,009

とんぼろ海岸清掃／薩摩川内市　in長目の浜

第6回　長目の浜海岸清掃　≪楽農人／とんぼろ海掃隊≫

後援

福　岡　か　ら　8　名　参　加

島民も初めて見る漂着ゴミに唖然！

第6回とんぼろ海岸清掃、15名での活動が出来ました。福岡からも道友が参加してくれました。島民も訪れることのない場所は、海外の表記の漂着物も多くみられます。日本の漂着物も海外の海岸へ流れ着いているのでしょう！

楽農人放浪記　012

鹿児島県　　薩摩川内市

NPO法人楽農人

福岡からＹさん来島

鹿　の　子　ゆ　り

新たな耕作放棄地再生に着手

こしき茜を植え付けてから45日経過

道路からのは入り口だけ草刈りました、隠れていた水路、乗り込み口が見えてきました。
来月から本格始動します。

楽農人放浪記　013

大分県中津　福岡県宇美町

NPO法人楽農人

夏は、草取り作業に追われます、梅雨時期は農作業ははかどらず、草だけが伸びてしまいます。

保育園児たちのサツマイモ畑も草で覆われていましたが、すっきりしました。この時期二週間に一度は草取り作業を要します。

こしき島行きを待つ薩摩地鶏『こしき茜鶏』

大雨で水没した深谷ネギ

再生八月号　令和五年八月八日発行（毎月一回八日発行）　創刊　平成二十八年九月一日　発行人　冨吉袈裟右衛門

	8月				9月				10月				11月			
日	5	6	8	19	3	7	8	16	1	7	8	21	4	5	8	18
曜	土	日	火	土	日	土	金	土	日	土	日	土	土	日	水	土
行事活動名	福岡空港ミリオン清掃63回	戒壇院早朝作務　第2回	博多駅早朝清掃　第357回	長目の浜海岸清掃　第7回	戒壇院早朝作務　第3回	福岡空港ミリオン清掃64回	博多駅早朝清掃　第358回	長目の浜海岸清掃　第8回	戒壇院早朝作務　第4回	福岡空港ミリオン清掃65回	博多駅早朝清掃　第359回	長目の浜海岸清掃　第9回	福岡空港ミリオン清掃66回	戒壇院早朝作務　第5回	博多駅早朝清掃　第360回	長目の浜海岸清掃　第10回
場所	福岡空港周辺	太宰府市戒壇院境内	博多駅博多口	鹿児島県薩摩川内市	太宰府市戒壇院境内	福岡空港周辺	博多駅博多口	鹿児島県薩摩川内市	太宰府市戒壇院境内	福岡空港周辺	博多駅博多口	鹿児島県薩摩川内市	福岡空港周辺	太宰府市戒壇院境内	博多駅博多口	鹿児島県薩摩川内市
開始時刻		6時30分	6時15分	6時30分	6時30分		6時15分	6時30分	6時30分		6時15分	6時30分		6時30分	6時15分	6時30分
運営団体	福岡掃除に学ぶ会	太宰府作務に学ぶ会	福岡掃除な学ぶ会	楽農人とんぼろ海掃隊	太宰府作務に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	楽農人とんぼろ海掃隊	太宰府作務に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	楽農人とんぼろ海掃隊	福岡掃除に学ぶ会	太宰府作務に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	楽農人とんぼろ海掃隊

上記行事予定表は、冨吉の参加する予定を掲載させていただいています。
その他、活動しているお掃除実践もございますので、事務局にお問い合わせください。

発行人（編集人）冨吉　袈裟右衛門

◇NPO法人福岡実践人　福岡掃除に学ぶ会
　Lineグループ運営：福岡清爽クラブ
◇福岡仁風読書会
◇NPO法人楽農人　とんぼろ海掃隊

〈合同事務局〉〒811-2247
福岡県糟屋郡志免町向ヶ丘2丁目4番3号　≪仁風庵≫
TEL 092-931-8155 FAX 092-931-8120
E－mail　fukusoukai@souji. link（掃除）

@F_JISSENJIN

「再生」に掲載している写真は、冨吉が撮影・管理しています。必要な方は事務局までご連絡ください。